

平成28年度 五泉市国語部 活動報告

部長 山川 奈津子

1 研究主題

基礎的・基本的事項を明らかにし、授業研究を通して授業力の向上を図る。

2 研究の概要

6月に指導者を招いて演習を交えた研修、9月に指導案検討のための模擬授業を行った。それを受け、10月に国語部代表による授業研究を行った。

3 研究の実際

(1) 研修 国語科におけるアクティブ・ラーニングについて

上記のテーマで、阿賀町教育委員会学習指導センター指導主事中原広司様を招いて研修を行った。まず、「アクティブ・ラーニング」に焦点をあて、基礎的なことから教えていただいた。その後「国語科におけるアクティブ・ラーニング」には、意欲面の充実が必要であり、それを引き出すために「教材に仕掛けを作る」「ズレを顕在化する」ことが重要であると、2つの教材「ライオン」(工藤直子・作)「海の命」(立松和平・作)を使って演習を行った。他者との考えのズレとそこから必然的に対話が生まれる過程を体験することができた。多くの示唆に富んだ有意義な時間であった。

(2) 授業研究指導案検討会

授業者の希望で、模擬授業形式で行った。対象学年は5年生である。教材『からたちの花』(北原白秋・作)を今までの国語科の授業で行ってきた「読みのアイテム」を使い読み進めながら作者の心(主題)にせまる、というねらいの授業であった。実際に授業を受けることで授業者の意図がよく分かり、授業での児童の反応を比較しながら参観できるということで、授業の見方が広がるとの声が上がった。

(3) 授業研究

ア 会場 : 五泉市立村松小学校

イ 授業者: 五泉市立村松小学校 教諭 澁谷 かおる 先生

ウ 単元名: 「詩を読み味わおう」教材: 『からたちの花』

エ 協議題

・単元を貫く言語活動の工夫

単元を貫く言語活動として「詩の名探偵になろう」という活動目標が、非常に効果的に働いていた。本時まで、朝学習の時間などを使って3編の詩を学習してきた。身につけさせたいことが含まれた詩を授業者の意図した順序で学習し積み重ねていったことが、子どもの興味を引き出し、意欲的に学習する姿につながったと考えられる。

・目的意識をもった交流の位置づけ

本時では、「自分の見つけた表現技法をペアで話し合う」「自分の考える作者の心をグループで話し合う」の2回の交流が位置付けられていた。ペアの交流では全員が話し合う材料をもって、「話したい!」という意欲をもって活動していた。グループの活動では、ホワイトボードに書き出した作者の心について、相違点に興味をもって話し合い、考えを大切にしながらグループの考えを導き出していた。

・目的意識をもった交流の位置づけ

最後に「学んだこと」として、もう一度作者の心を考え、ノートに自分の考えを書いた。黒板に出た意見には赤線を引き、それがキーワードになることを明確に示すことで、どの子どもでも書けるよう工夫されていた。

4 成果と課題

研修を通して、国語科の指導におけるアクティブ・ラーニングのとらえ方とその具体を演習を通して実感できた。授業研究で際立ったのは、「どの子どもにも話し合うための材料をもたせること」と、「子どもの興味を持続させながらの毎時間の蓄積」であったと考える。まさに、6月の研修が子どもの姿によって具現化された授業であった。今後、この研修を参考に授業改善に取り組んでいきたい。

